



ディフェンス上達のこつ (5)

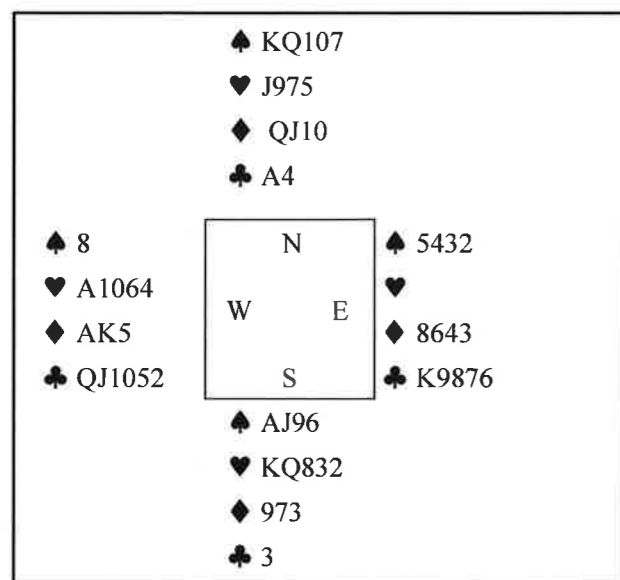
基本方針の最後である「トランプトリックを作り出す」ですが、ディクレアララーのスタートをラフするのを

- 1) どこかアンビッドスーツが短い
- 2) オポネントのサイドスーツがレイズされていてこちらが長い
- 3) 弱いハンドを持っていて何か良いディフェンスの方針を見いだせない

ようなときで、もう一つの方針はトランププロモートで自分のトランプトリックを作り出すのが

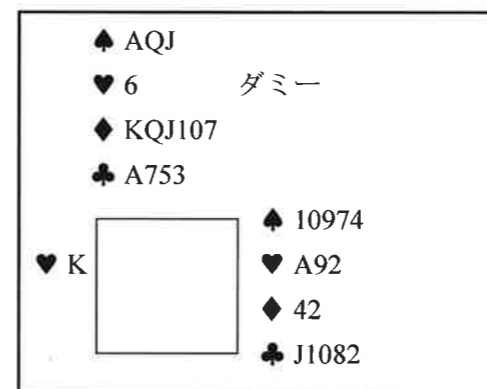
- 4) トランププロモーション
- 5) アッパーカット

の2つの方法によるものです。最初の3つは短いところをリードすることで、つまりシングルトンやダブルトンをリードすることは普通の人によく実践されるもので、改めて説明するまでもないと思います。しかし言えることは、この方針は使われすぎる嫌いがあることです。失敗する主な理由は自分の短いところは相手が長いことが多く、これをリードするとディクレアララーにサイドスーツをエスタブリッシュすのを助け、テンポも与えてしまうことです。特にこの方針が成功するためにはパートナーにリードしたスーツ以外にもエントリーが必要です。ということは自分は弱くパートナーにある程度の強さが必要です。自分の方に強さがあるときはこの方針、つまり自分の短いところをリードすることは成功しません。



Nからオープンで、  
 1 D - 1 H  
 2 H - 2 S  
 4 H  
 と進み結局Sの4Hになりました。  
 Wからのリードですが夢スペードシングルトンをリードを考へてはいけません。自分が強すぎるからです。これは自分たちのスーツCQのリードが最適です。実際スペードリードすると、ディクレアララーにDQを取るテンポを与えてしまいメークされてしまいます。トランプが4枚あり相手が4-4もしくは5-4フィットしたように思えます。したがってパンピングの方針がいいのです。

これはトランププロモーションの例ですが、コントラクトは6Sです。



パートナーからHKがリードされます。トランプを10、9頭の4枚持っています、このまま駆られて、ダイヤモンドのKを持たれていたら12トリック取られてしまいそうです。しかしダミーのHJを切らせて使ってしまうせばトランプの10がプロモートして1ダウンです。したがってハートを続けられれば良いということになります。しかしカモンシグナルをしても続けてくれるかどうかは少し怪しくなります。したがってAでオーバーテークして、もう1回出せば確実です。

(続く)